



独立21周年—業績、 課題と展望—

ラフィーグ・イスマイロフ
政治学者

アゼルバイジャン共和国の国家独立宣言の採択以来、21年の歳月が経った。



モスクワに用心深く暮らす習慣を持ち続け、まだ国家形成の段階に突入されていない、独立宣言したばかりの国は、領土一体性への侵害を含み、深刻な挑戦と直面してしまった。いずれの新国家にも起こるように、それらの挑戦が少なくなかった。中でも、基本法の立案・採用、国家機構及び国家機関の樹立、外交・経済政策の決定、公共安全の確保等々である。主要な問題は、アルメニア側の民族主義によってアゼルバイ



独立運動、1989年、バクー市

ジャン領土の不可分な部分を奪取する目的で圧迫されたナゴルノ・カラバフに於ける紛争激化であった。それは、当時の主導制度からは、国家の最も重要な問題解決に対するよく考え抜かれた、包括的と同時に決定的な扱い方を必要としていた。この問題及び社会の実に革命的な変換を起こすような他の問題対処に必要な性質は、アゼルバイジャンの最初の主導者が持っていなかった。それこそが、独立の最初の数年間に於いて国の政治的な指導力の迅速な変化に原因することとなったのである。アゼルバイジャンの初代大統領であるアヤズ・ムタリボフ氏、また第二代大統領のアブルハズ・エルチベイ氏が国の指導者としての自己の薄弱さを直ちに判明し、責任の



負担を負うことができず、相次いで辞任した。両方の場合に限っては、ロシアの諺に例えると、「モノマフ大公の王冠にも合わず」（注：分相応ではないという意味）なのである。ムタリボフ班の極端な保守主義やエリチベイ班の極

端な過激化がアゼルバイジャン人民の大部分に請求されることなく、最初の大統領らが行った政策の肯定的だったところさえ、政体の安定に至らなかった。この点に関し、エリチベイ氏とその基本的に現在の人民戦線党及びムサヴァ



ット党の代表者からなる班が政権から離れることに原因となった。エリチベイ班は政治・経営経験の欠如、またはアゼルバイジャンの今後の発展に関して実用的な見解より伝奇的な考え方をしていたため、国の政府・社会経済的、そしてイデオロギー的な管理策をめぐる新制度樹立の開始に成功できずじまいだった。断片的ながら貧弱な関係性を持つ革新事業が新独立国家の根本的な基礎の強化を促進しなかった。それは、「政権は奪取するのが維持するのより容易である」という著名な主張の正当さを再び明かすのであろう。

1993年にヘイダル・アリエフ氏が大統領として出現した後は、アゼルバイジャンに於いて国家体制の新たな段階—国家と社会の政治的・経済的、そして精神的な生活再建を望んでいる全政治力・社会力より要求された段階—が

開始したのである。

ヘイダル・アリエフ氏は、地政学的に複雑な現実性を酌量し、アゼルバイジャンの新しい均衡外交策を正しく定めたのである。「世紀の条約」の締結、または、バクー・トビリシ・ジェイハン原油輸出パイプラインのプロジェクト実現が、独立国家の経済的、そして軍事的・政治的基盤を強化し、アルメニアによって占領されたアゼルバイジャン領土の返還を目的とした国際的な条件を創出するのに向けた国家外交政策の戦略を本質的に決定した。ヘイダル・アリエフ氏は、大統領の在職期の最初日から当時世にのさばっていたアゼルバイジャンに於ける民族自決権の侵害のような偏見を克服しようと、まさに激しいエネルギーを現してみせた。アゼルバイジャンの指導者は、世界社会のリーダー・他国の指導者、国際機関の代表者に向かい、

アゼルバイジャンの領土一体性保持権がアゼルバイジャン人民の聖なる、不可欠な権利である、且つアルメニア少数民族の権利侵害については議論の余地がない、と着々と納得させようとしていた。そこで、その努力は著しい結果を生じた。というのは、全ての先進的な国際機関の資料ではアゼルバイジャンの領土一体性が認められ、それは絶対多数の国々・民族より認知されている。そして、それはヘイダル・アリエフ氏のおかげであり、ヨーロッパやアメリカのリーダーらの会議にて国連の演壇からアルメニア・アゼルバイジャン紛争及び世界政治の主要な問題に関するアゼルバイジャンの立場を貫き通せた。今後は、アゼルバイジャンの新たな外交政策の基礎は、後継者のイルハム・アリエフ氏によって進歩させられており、2007年に国のマルチベクトルと外交政策を基本原則として正式に宣言したアゼルバイジャン国家安全保障構想を承認した²。

過去数年間は、完全に新しいシステムの出現を記念し、その分析は、アゼルバイジャン共和国が発展しつつあるという前進運動として明らかに捉えることができるだろう。アゼルバイジャンの政治的な発展に関する文献では、当時の大事な業績の一つとして相対的な政治安定樹立であるという意見を極めて頻繁に見かけることができる。確かに、ヘイダル・アリエフ氏には、ただ短時間にわたって、ソ連帝国崩壊後の不安な時期



にてできた組等の側が不安定化させる試みを阻止することができたのである。90年代半ばにおける暴動の試みを抑制できたことが、国家の主権を侵害しようとする何れの試みの無益を見せ、国家体制を維持・強化するに向けた政府の決断力を挙げたことであろう。1993年11月から統一軍制の軍隊が設立開始されていく。『黒き園』の筆者トマス・デ・ワール氏の見解によると、ただ1994年に於いて初めてナゴルノ・カラバフをめぐる紛争にはアゼルバイジャンの正規軍の一部が関与したとのことである³。それは、多くのソ連共和国が既に1991年から1992にかけて経過してしまった段階は、アゼルバイジャンではただ1993年末から1994年初頭にかけて行われるようになったのである。遺憾ながらも、失われた機会が領土一体性の喪失、そして国内避難民の出現—今でも解決策が見つからない問題—として兆してしまった。

ヘイダル・アリエフ氏の政策としては、国家体制にと



って有意義な国民の自我意識の強化を言及すべきであろう。彼が煽った「アゼルバイジャン主義」の概念は、国籍に基づき、全体社会を統一させようといった能力を取得した国家の唯一な基礎となった。1995年11月12日に採択された憲法では、「アゼルバイジャン人」という用語が固定されており、「アゼルバイジャン人民が、アゼルバイジャン国家（中略）により定められた規定を排除しないその法律に従属するものとみなされ

るアゼルバイジャン共和国領土及びその国外に居在するアゼルバイジャン共和国市民から成る⁴」と定義された。しかしながら、アゼルバイジャン主義の概念が有効になり、その意味は国民に理解してもらえるためにまだまだ多くのことを行わねばならなかった。過去21年間では、少数民族を含め、国の全て住民が自分をアゼルバイジャン人として自己確認するため多くのことが行われてきた。

1995年にアゼルバイジャ



ン共和国憲法採択は、形成しつつある国の基本原則を最終的に承認したものである。アゼルバイジャン共和国は、世俗的な国家であり、その一体性へのいずれの侵害が根絶される、と確立された。同時に、民主主義制度、複数政党制、国民の権利と自由の確保の全面的な発展が明らかに提唱された。あらゆるレベルでの総選挙一大統領、議会及び地方選挙が定期的に行われる。国民の民主的な権利を保護するのが公共政策の優先順位となる。現在、アゼルバイジャンの国家建設の主な方策としては、社会及び国家の今後の民主化が定まっている。それは、本部門における全ての問題が解決され、民主主義的な価値観が生活上では最終的に確立されたとは限らない。国家は、国民権利確保の部門での問題と直面しているのが現状である。それらの問題が、過去の繁文縟礼とたいいてい関連付けられ、とりわけ、公務員の恣意性、延引と

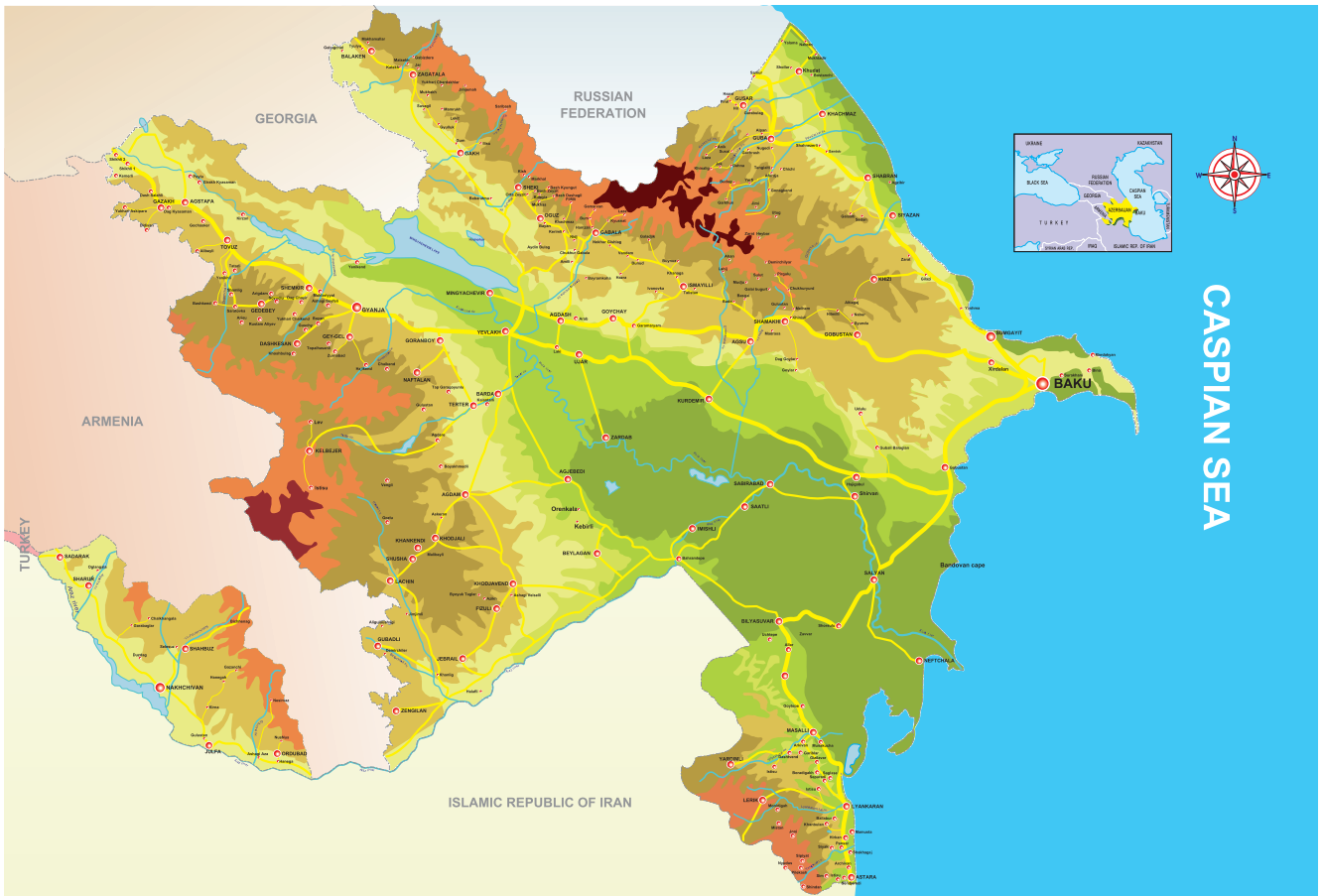
して目立たれてしまう。

独立過去21年にわたり、アゼルバイジャンでは、本質的に新しい社会経済制度ができたのである。経済関係の部門に関し、国有財産への独占に終止符が打たれ、個人・民間・協同組合の所有権が幅広く開発された。所有権の多様性は、経済発展の新段階の開始に伴ってきた。エネルギー・コンプレックスの部門は、迅速な発展していった。21年間では、石油生産量が5倍以上増加し、記録的なレベルに達し、ガス生産量が何倍も増えてきた。石油ガスセクター開発が民営化及び経済の他セクターに於ける自由企業活動の発展と結合して類を見ない国内総生産増加、急激な失業・貧困率減少に導き、アゼルバイジャンを本地域のみならず、旧ソ連諸国にわたる最も急速に発展しつつある国の一つとさせた。他方では、経済関係の発展と改善に関わる多くの課題がまだ解決されていないのである。農

業開発を促進する課題が少なからず、エネルギーセクターと関係していない国民経済の全般部門、そして教育・保健発展をめぐる議題が数多く残っている。

それにもかかわらず、現在は、国家基礎の確立、国の基本法および開発構想の採択、外交政策の決定、石油戦略の現実化がアゼルバイジャンの政治的・社会経済的な発展のために良好な基盤を築いた、と言っても取って過言ではあるまい。しかし、政治的・経済的プロセスが進展しており、現代世界では益々急速なペースで変わっていくことを忘れてはいけない。それが、アゼルバイジャンの政府には、国の近代化への戦略的な進路を時宜にかなった改正を行うようと、巨大な責任を負わせる。

現代世界に於けるアゼルバイジャンの発展に関する課題の概念的な分析は、現大統領イルハム・アリエフ氏の演説で取り上げられている⁵。



また、この点に関し、アゼルバイジャン大統領府の管理職長である、学士院会員ラミーズ・メフディエフ氏の幾つかの書籍と論文に於いてもオリジナルな考察が数多く見られる³。上記を踏まえ、政府は、現代的な挑戦を深く理解し、よく対応し、国の更なる発展を図る能力を持っていることがわかる。

疑いもなく、現在は国家が直面している全部の課題が解決されることだろう。それは、数世紀にわたる歴史的な経験、アゼルバイジャン人の楽観主義と賢明さ、幸せな未来への信念、子孫のために自由で、繁栄する独立国での生活保障を望むことが、自身を与えることなのである。✿

参考文献：

- 1 Концепция национальной безопасности Азербайджанской Республики. Утверждена распоряжением президента Азербайджанской Республики 23 мая 2007 (アゼルバイジャン共和国の国家安全保障構想。2007年5月23日付けアゼルバイジャン共和国大統領より承認。)
- 2 Черный Сад. Армения и Азербайджан. Между миром и войной. Москва, 2005 г. (『黒き園。アルメニアとアゼルバイジャンー平和と戦争の間にー』、2005、モスクワ)
- 3 Конституция Азербайджанской Республики. Глава 1, статья 1, ч.2. Баку, 1996, с.1 (アゼルバイジャン共和国

憲法、第1章：1条の2、バクー、1996、1頁)
 4 <http://www.preslib.az/ru/eres.html>
 5 Рамиз Мехтиев. Азербайджан: вызовы глобализации. Баку, "XXI-Yeni Nesirler evi", 2004. Он же: Определяя стратегию будущего: курс на модернизацию. Январь 2008. (ラミーズ・メフディエフ、『アゼルバイジャン：グローバル化の挑戦』、バクー、XXI-Yeni Nesirler evi出版社、2004。同上、『将来戦略を決定：近代化への過程』、2008.1)